

平成29年度 学校評価総括表 伊丹市立池尻小学校

教育目標		『すべての子どもを幸せに』～豊かな心を持ち、自立してたくましく生きる児童の育成～						
重点目標		(1)生涯学習の基礎となる確かな学力を育てる。(2)感性豊かで思いやりのある児童を育てる。(3)たくましく生きるための健康と体力を育てる。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎基本の徹底と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的基本的な知識技能を習得させる。 授業力の向上と授業改善をめざして校内研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 宿題や課題を最後までやりきらせるよう支援する。 漢字や計算などの小テストを実施する。 めあてを提示し、ふり返り等で理解を確認しながら授業を進める。 校内研修として、すべての教員が年1回以上授業公開する。 他校の研究会に一人一回以上参加できる体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の提出率が90%以上になる。 小テストを月4回以上行う。 すべての教員が年1回以上授業を公開する。 児童アンケートにおいて「先生は教え方に色々工夫している」との回答が90%以上になる。 他校の研究会に一人一回以上参加する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 課題の提出は、各クラスのほぼ決まった児童が未提出となっている。全体としては、90%以上達成している。 小テストをほぼ月4回以上行い、習得の確認ができた。 児童アンケートにおいて「先生は教え方に色々工夫している」との回答では、Aが76%、Bが20%で、合計96%になった。 すべての教員が年1回以上授業を公開し、事後研でさらに深めることができた。 他校研究会に1回以上参加し、授業力向上・授業改善について考えを深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題がなかなか提出できない児童については、家庭に協力をお願いしたり、学校で可能な限りやりきらせたりする。 生活・学習ふり返りカードで、家庭学習の習慣をつけていく。 学習の定着度が悪い児童への、放課後の学習を充実させる。 今後もさらに授業力の向上と授業改善を目指し、教材研究をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着のため、課題や宿題をやりきらせることは大切であり、今後も続けていく。 テスト等で解答のしかたを教えていくことも大切である。
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> わかる授業をすることにより学習意欲を向上させ、達成感を味わわせる。 読書活動を充実させ、自ら学び探求する心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> NIEやICTを活用した分かる授業を実施し、学習に対する興味・関心を喚起する。 全校一斉の朝読書の時間を週3回実施する。 読書記録カードを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートにおいて「授業はわかりやすく楽しい」との回答が90%以上になる。 前年度より読書数を増やす。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートにおいて「授業はわかりやすく楽しい」との回答では、Aが61%、Bが34%で、合計95%となった。 NIEやICTを活用した授業実践をすることができた。 朝読書の習慣が定着してきており、静かにじっくり読書ができるようになってきている。 もう1冊借りられる券がもらえるということで、意欲的に本を読む児童が増えた。 家庭での読書ができていないことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> NIEやICT、授業力向上の研修を行い、児童の興味を引きつけるような授業改善を目指す。 図書の時間に本を借りたり、朝読書をする時間を確保したりする。 学習の合間を利用して本を読む習慣をつけさせる。 生活学習ふり返りカードで読書時間を確保するように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> NIEやICTの活用により授業改善を行っていくことで確かな学力につながっていている。 読書記録カードやもう1冊借りられる券などの工夫で読書量がふえている。 家庭での読書時間を増やすことはなかなか難しいが、読書の宿題を出すことやふり返りカードの読書時間記入などで意識させていく工夫や、保護者への啓発などができればよい。
	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた支援計画を立て適切に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達検査や診断を受けた児童を中心にサポートファイルを作成する。 必要に応じてケース会議をもち適切な対応や支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ケース会議を随時、校内委員会を月1回行いニーズに応じて組織的な支援体制を構築する。 校内研修を年に2回以上行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 普段から学年会等で児童の実態について情報交換し、ケース会議で話し合うべき事例をあげることができた。 ケース会議や校内委員会を月1回行い、実態把握と今後の対応について話し合うことができた。 コンサルテーションや教育相談を必要に応じて活用した。 校内研修を年度初めと年度末の2回行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの授業づくりについて共通理解し、困り感を持っている児童への適切な支援を行う。 これからもさらに深く児童を理解し、実態に即した対応や支援に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインを意識して教室環境の整備なども学校全体で行っていくようにする。 文章題や図形などイメージする力が弱い児童もいる。視覚的支援を取り入れることは大切である。 それぞれの児童に応じたきめ細かい支援が必要である。
子どもの問題行動への対応	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動に対する指導体制を充実させる。 いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童を理解し、指導の徹底を図る。 関係機関と密に連絡を取り相談する。 いじめアンケート調査を年2回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修を年に2回以上行う。 児童アンケートにおいて「自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらっている」との回答が85%以上になる。 児童アンケートにおいて「学校へ行くのが楽しい」との回答が90%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修会を年2回実施した。 普段から学年会等で児童の実態について情報交換し、児童の共通理解と指導方法の共有を行った。 問題行動が起こった際は、関係学年と生活指導が一体となって組織的に対応することができた。 児童アンケートにおいて「自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらっている」との回答が92%、「学校へ行くのが楽しい」との回答が88%となった。 いじめアンケートを活用して児童の心情や友人関係を把握し、問題の兆候があった場合は早期対応を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> これからも児童の実態把握に努め、きめ細かく対応していく。 子どものよりよい成長のため、保護者や地域とさらなる連携を図る。 不登校傾向の児童について組織的に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の協力を得ることは難しいが、家庭や地域と連携して取り組んでいくことが大切である。 不登校傾向の児童については、SCやSSWと連携を密にし、取り組んでいく。 いじめや問題行動に対しては早期発見早期対応して、早期に解決していくよう学校全体で取り組む。 	

豊かな心・健やかな体	健康教育の充実	・児童の体力の向上を図る。	・授業で、各学年に応じた運動プログラムを取り入れる。 ・全校業間縄跳び大会を実施する。 ・各学年に応じた運動プログラムをより具体的で簡単な内容にし、研修等で紹介し合う。	・教職員アンケートにおいて「学年に応じた運動プログラムを取り入れている」との回答が90%以上になる。 ・全校業間縄跳び大会を年2回実施する。	A	・「学年に応じた運動プログラムを取り入れている」との回答が97%となった。 ・全校業間縄跳び大会を年2回実施し、長縄記録を伸ばそうと、運動場で業間休みに練習する姿が見られた。 ・学年が上がるに連れて、休み時間に外遊びをする児童が減っている。	・年間通して業間休みに外で活動できるような運動や遊びを体育や学活等の時間に紹介する。 ・ロードレース・住友電工杯・陸上大会・水泳交流会・いたっボール・すもう大会などへの参加を促し、練習を重ね大会で結果を出すことで、運動への意欲づけを講じる。	・昨年度悪かった長座体前屈が体育授業の取り組みにより改善されたのはよい。児童の実態に合わせて取り組んでいる。 ・学校外の陸上やすもう、いたっボール等の大会へ積極的に参加している。保護者の協力が得られることがすばらしい。今後も続けていけると良い。
	健全な食生活の推進	・食生活に関心を持ち、健康に生活しようとする児童を育成する。	・食育を給食の時間や授業において推進する。	・児童アンケートにおいて「毎朝朝食を食べている」との回答が90%以上になるように働きかける。 ・給食の残食がなるべくゼロになるようにする。	A	・児童アンケートにおいて、「毎朝朝食を食べている」との回答では、Aが84%、Bが10%で合計94%となった。 ・食べ物が自分の健康につながっていることを意識し、栄養バランスに気をつけて給食を残さず食べようとする児童が増えた。 ・栄養教諭とも連携して、食育を推進することができた。	・栄養教諭と連携し、授業で食事や栄養について取り扱ったり、給食センターからの献立に関するプリントを使ったりし、より食に対する関心を深めていく。 ・クラス全体で残食0を目指していく。	・「元気よくもりもり食べよう習慣」など児童主体での取り組みはよい。今後も食への関心を高めていく。 ・家庭の協力を得ながら、食生活についての意識を向上し充実していく。家庭科の学習も大切である。
開かれ信頼される学校園	学校情報の発信	積極的に学校情報を発信する。	・学校だよりを発行し、地域にも配布する。 ・ホームページにより学校の情報を積極的に発信する。 ・マナーや生活のきまりを学校だよりにより月目標として掲載する。	・学校だよりを月1回以上発行する。 ・ホームページを月1回以上更新する。 ・保護者アンケートにおいて「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」との回答が90%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて「学校は、保護者の願いに答えている。」との回答が90%以上になる	A	・学校だよりは月2回以上発行した。 ・ホームページで学校の様子を毎日知らせることができた。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」との回答では、Aが64%、Bが33%で合計97%となった。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、保護者の願いに答えている。」との回答では、Aが40%、Bが57%で合計97%となった。	・これからも積極的に学校の情報を発信していく。 ・学年便り等で生活振り返り習慣の実態を公表したり良い取り組みや課題を紹介したりして、家庭でも工夫改善策が講じられるようにする。	・HPの毎日更新、学校だよりが30号を越えて出されていることはよい。 ・今後も学校からの情報発信を続けていく。

学校関係者評価総括
宿題や課題をやりきらせることで基礎的な学力がついている。
読書や新聞教育などに力を入れ、環境を整えていることでことばの力がついてくる。今後も続けていく必要がある。
不登校傾向の児童に対して他機関とも連携して取り組んでいるが減少できていない現状がある。
休日のスポーツ大会への参加で保護者の協力が得られ児童の運動への意欲向上につながった。

次年度に向けた重点的な改善点
読書や新聞教育に力を入れ、子どもたちのことばの力を高め、思考力・判断力・表現力をつけるよう授業改善に取り組む。
家庭や関係機関と連携し組織的な対応により不登校児童の減少に努める。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った